

非常時に備えて

災害はいつどこで起こるかわかりません。いざというときに備え、非常持ち出し品と非常備蓄品を用意しておきましょう。

非常持ち出し品



持ち出し品を
欲張りすぎると
避難が大変です。

目安は男性で15kg、女性で
10kg程度です。

貴重品

現金、権利証書、預貯金通帳、
免許証、健康保険証、印鑑、ク
レジットカード・キャッシュカー
ド類、小銭など



ラジオ

予備電池も忘れずに



非常食品

乾パン、缶詰など災を
過ぎなくても食べられ
る物やミネラルウォ
ーターなど



懐中電灯

予備電池も忘れずに



応急医薬品

ばんそうこう、傷薬、包
帯、抗生物質、病人やお
年寄りの常備薬など



衣類

下着、上着、タオル、紙
おむつなど



洗面用具など

歯ブラシ、せっけん、生
理用品など



非常備蓄品

非常備蓄品は、災害復旧までの数日間(最低3日分)自ら生
活できるように準備しておくものです。

食品

米(缶詰やレトルトの
ごはんなども便利)、缶
詰、菓子類、梅干や調味
料など



水

飲料水は1人1日3リッ
トルを目安に。沸かし
てから飲む



燃料

卓上コンロ、固形燃料、
予備ボンベなど



高齢者や乳幼児用食品 粉ミルクや離乳食、流動食、おかゆなど

総合交通対策先進市視察



線路走行時のスタイル(車輪が見えます)



- 岡山県小田郡矢掛町(令和6年1月10日)
「井原線利用促進目的の無料観光バス運行」
- 阿佐海岸鉄道(徳島県海洋町)(令和6年1月11日)
「観光の起爆剤としてのDMV運行」

世界初のデュアルモードビーグルの運行により、
住民の足としての定期路線はもちろん、観光資源の
少ない海洋町が観光資源として運行を行っています。
路線として運航はしているが、まだまだ、実証実験の
側面は否めず他の地域での導入可能性については、
ハードルが高いと感じます。松江市でも宍道町を起
点とした本次線の廃線を見据え、新たな交通手段を
考えていかなければいけない時期にあります。又、一
畑電車の観光資源化も考慮に入れます。

堀川遊覧船も当初は、河川交通の一つに考えられ
ていた側面もありましたが、今は、松江市を象徴する
観光資源の一つになっています。何が幸いするかわ
からない今、情報収集に邁進していきます
※DMVとは、道路上と線路上をモードチェンジに
よって走行できる乗り物の事です。左の写真と図で
ご確認ください。

松江市防災ガイドブック

災害の特性や地域の特徴についてまとめ
られ、日頃からの備えと万一の災害時に役立
つよう、松江市が市内各世帯に配布しまし
た。(松江市のホームページからご覧になれます)

防災情報の入手、地震・津波・風水害・土
砂災害・原子力災害別に変、分かりやすい
内容となっています。今回の「能登半島地震」
では島根県にも津波注意報が発令され驚か
れた方も多かったことと思います。ガイドブッ
クから【非常持ち出し品チェックリスト】を掲
載いたしました。今一度、非常時に備え、ご確
認いただければとおもいます。



松江バレーボール協会主催 第23回松江ニューイヤーカップ 中学生大会

1月20日	優勝	宍道中
〈女子〉	準優勝	安来二中
27日	優勝	東出雲中
〈男子〉		出雲三中
	準優勝	斐川二中
		鹿島中 A

松江VB協会理事長として参加したこの
大会は、20年以上続き、公式戦では、勝ち
上がらないと対戦しない周辺地域の学校
と試合することができます。
学校によっては2チームエン
トリーすることもできます。
試合結果は右記QRコードか
らご覧いただけます。



令和6年2月定例会 主な日程

2月20日	本会議 (会期の決定、提案説明)
2月26日	一般質問(代表質問)
2月27日	一般質問(一問一答質問)※
2月28日	一般質問(一括質問)※
3月1日	予算委員会
3月4・5日	総務委員会
3月6・7日	教育民生委員会
3月8・11日	建設環境委員会
3月12・13日	経済委員会
3月18日	予算委員会
3月14日～21日	まちづくり対策・総合交通対策・ 新庁舎建設特別委員会等

3月22日 本会議(最終日)
※2月27日もしくは28日に登壇予定です

松江市議会の配信された映像は、定例会
閉会日の10日後まで右記QRコードから
ご覧いただけます。



松江市議会議員 原田まもる通信

地域をまもる。 Vol.8 だより

〈発行日〉2024年2月25日

〈発行者〉原田守後援会事務所／松江市雑賀町225 TEL.0852-27-0925 FAX.0852-20-0460



災害に正月なし!!

例年なら、満面の笑みで「明けましておめでとございま
す」と始めるところですが・・元旦に発生した「能登半島地震」
の日に日に明らかになる甚大な被害状況に衝撃を受けるとと
もに能登半島と同様に、半島特有の地理的制限を持つ「島根
半島」の美しい風景に思いを巡らせました。

能登半島の北部に位置する「珠州市」は津波の被害も受け、
死者100名以上、5,000棟以上の家屋が崩壊し、発災1か
月が経過してもほぼ全域で断水しています。その「珠州市」と
「松江市(美保関町)」は、「出雲国風土記」のくにびき神話に
共に登場する縁で姉妹都市提携を結んでいます。さらに災害
時に陸路が遮断、孤立する恐れがあるので、海路を生かした

大規模災害時の相互応援協定を結んでいます。今回がまさに
その時でしたが、最大4メートルも地盤が隆起した事により
多くの港が使用不能となったため、残念ながら、陸路の再開を
待っての支援になったようです。

前述のとおり、能登半島と島根半島は地形の特色が類似し
ており、今回のような地震が起これば、美保関町や島根町は、
孤立する可能性が高く、人命救助、支援物資の搬送等の遅れ
が危惧されます。今回の「能登半島地震」を教訓として、すぐ
にでも大規模な地震への備えを強化すべきだと痛感しました。
道路の整備、水道管の耐震化等インフラの整備はもとより、孤
立した際の備えも重要かと思います。すぐに行動いたします。

令和5年度第5回11月定例会(令和5年11月28日)

条例案件7件、一般案件36件、予算案件21件、議員提出案件5件、
陳情案件2件の計71件を審査しました。主要なものを掲載。

一般会計補正予算(第6号)	21億5,816万円
---------------	------------

【内 訳】

- 新型コロナウイルス感染症対策、電力・ガス・食料等価格高騰対策
〔歴史館、市民活動センター、フォーゲルパーク、総合運動公園〕
2億151万円
- 宿泊施設の高付加価値化等のための改修支援
(コロナ交付金) 1億円
- エネルギー価格高騰の影響を受けた指定管理者の支援
(コロナ交付金) 3,112万円
- 新庁舎建設の建設資材価格上昇分 1億690万円
- 災害復旧に係る事業 4,735万円
〔農林水産施設・公共土木施設・教育施設等災害復旧費〕
- 「雨の日でも遊べる空間」の充実～わいわいルーム開設費～
〔安田生命保険総合会社寄付金〕 100万円

【議第117号】松江市総合文化センター大規模改修工事請負変更契約
インフレスライド条項に基づく増額 2,878万円

【議第118号】海鳥区の消防機庫を防災倉庫として無償譲渡

【議第119号】松江南消防署のはしご付き消防自動車の取得
2年後をめどに更新 1億7,820万円

【議第119号】公設施設の指定管理の指定

【議第162号】旧大谷小学校・幼稚園を大谷ちはやの杜へ無償譲渡

一般会計補正予算(第7号)令和5年12月20日	18億6,926万円
-------------------------	------------

【内 訳】

- 住民税非課税世帯に1世帯当たり 15億2,250万円
7万円を追加給付 (交付金)
- 燃料価格高騰の影響を受ける交通事業者支援 1,001万円
〔一畑電車、バス事業者、タクシー事業者へ燃料費の一部支援〕
- 職員の給与改定に伴う補正予算(職員人件費) 3億146万円

令和5年度第一一般会計2月臨時会

一般会計補正予算(第8号)	5億5,211万円
---------------	-----------

【内 訳】

- 被災地支援 1,807万円
令和6年能登半島地震の被災地支援 (一般会計繰入金)
・姉妹都市の珠州市へ見舞金 1,000万円
・被災地への職員派遣 珠州市、能登町、金沢市
- 物価高騰対策 5億3,404万円
(物価高騰対策重点支援地方創生臨時交付金)
・住民税均等割のみ課税世帯に対し、10万円/世帯
給付見込数3,335世帯
・住民税非課税世帯等の子育て世帯に対し、5万円/人
給付見込数3,330世帯

今年の干支

十干は「甲」(きのえ)

十二支は「辰」(たつ)

ものが始まる

万物伸張する

「萌 動」
ぼうどう

「伸 張」
しんちょう

売上紀神社「歳旦祭」の講話で解説頂きました。今年の
干は、十干の第1番目の「甲」。もともと、亀の象形文字で、
「新芽が殻を破って萌え出る」を表し「陽に向かって、もの
が始まる」と意味します。

支の方は、十二支の5番目の「辰」、元の象形文字は二枚貝
が唇を出して歩く姿を現し、意味は、「陽気が盛んになり、
万物の変化を伸張する」です。

私自身が「甲辰」第1回東京オリンピックが開催された
1964年生まれですので、干支を一周して「還暦」を迎え
ました。記念すべき年ですので、「初心」に帰って活動して
行こうと決意を新たにいたしました。

11月定例会 一般質問〈抜粋〉

「**アウェイ育児**」・・耳にされたことがありますでしょうか?「アウェイ育児」とは、慣れ親しんだ場所を離れ、すぐに頼れる人がいない場所での子育てを指しますが、ある調査では、母親の7割以上が「アウェイ育児」であると言われています。7割以上・・・孤独な育児が心配される数字です。新生児の育児相談の現場に現状を伺ったところ、日々、緊急性の高い相談が多数、寄せられているとのことでした。妊産婦や子ども、子育て家庭に対する支援を一層充実させるため、国は、児童福祉法等

1 こども家庭センター設置後の子育て支援・・特に産後ケア事業について

Ｑ 「こども家庭センター」が国の要望より1年前倒しで設置されたが、設置後、半年の状況を伺う。

Ａ 相談窓口一本化により、乳幼児の発達、発育に関する相談から、育てにくさや虐待の懸念に関する相談まで幅広い内容の対応が可能となった。その結果、今年10月末までの相談件数は229件で、昨年同時期に比べ1.3倍、訪問・面談件数は227件で2.1倍になっている。養育支援訪問事業（特に支援が必要な家庭にヘルパーを派遣する）についても組織再編に伴いスピーディーに行うことが可能となり、例年1、2件であった利用件数が今年10月末時点6件に増加している。これらの事から、円滑かつ効果的に運営できているものとする。

Ｑ 官民で推進したゼロ歳児の預かり保育、産後ケア事業の現状を伺う。

Ａ 一時預かり事業を実施する施設は、市内の保育施設86施設のうち44施設で、ゼロ歳児を受入れているのは、13施設である。生後57日目から受け入れているのは2施設ある。

Ｑ ゼロ歳児の預かり保育、産後ケア事業の今後の展望を伺う。

Ａ 近年、特に「新生児を預かってほしい」・・というニーズがある中、現在、生後8日目からの預かりを検討している助産院もある。

回答を受けて

生後8日目からの預かり支援をぜひ、進めていただきたい。特に、新生児、乳児の育児は、言葉では表現できない悩みを抱えているお母さんが多いことと思う。ご本人の体調、育児に対する不安が強い方への支援は喫緊である。合わせて、産後のアウェイ育児への支援を熱望する。

Ｑ 支援事業が迅速な支援となり、また、誰ひとり取り残すことなく、より多く活用いただけるよう、さらに周知することが必要だと考えるが、取組を伺う。

Ａ 民間事業者のゼロ歳児と母親へのケアに関する取組について情報収集に努め、行政の取り組みと併せて、わかりやすく周知していきたい。

回答を受けて

国の子育て当事者意識調査によると、2020年、子育てをして負担に思うことの問いに対して、精神的、身体的疲れが大きいとの回答が約43%で、2015年より10ポイント以上増加しており、支援は待ったなし!と考える。合計特殊出生率2.22%を目標に、松江市の子育て支援が少子化対策に繋がることを期待する。

の一部改正により「こども家庭センター※」の設置を決めました。施行期日は令和6年4月1日ですが、松江市は一年前倒して今年度4月1日に開設しました。設置後の松江市の状況確認、産後ケア・子育て支援の充実、安全な登下校、さらに、不登校児童生徒数が過去最多30万人となったこと等をうけて、12月定例会では、子どもの誕生から成長に伴い行政が取り組むべき課題について質問いたしました。

※「こども家庭センター」とは・・・「母子保健」と「児童福祉」の支援拠点を統合し、すべての妊産婦、子育て世帯、子どもを対象とする包括的な総合窓口。

2 小学校通学区域に存在する飛び地や凹凸地域について

Ｑ 右下記の地図の通り、小学校通学区域がいびつな事がわかる。一例だが、同じ西津田町でありながら一部の区域は津田小学校ではなく、9号線を横断して中央小学校に通っている。実は、この件に関しては地域の見守り隊の方々から、9号線の横断を心配して「あれ何とかならんかね」と顔を合わせるとご相談を受けている。飛び地、凹凸地域が生じた原因、また、この状況の見解を伺う。



Ａ 通学校区偏在の要因は、児童数の増減による学校の統合や再編、住宅団地の新規造成など様々である。

Ｑ 通学校区偏在により、通学距離が長くなると交通事故のリスクが大きくなると危惧するが、見解を伺う。(例えば、大輪町の南端の住居から隣町の母衣小まで200m、校区の城北小学校までは1900mとほぼ10倍になります。)

Ａ 通学路の安全確保については、公民館が中心となり、地域安全推進委員やPTA、老人クラブなどと連携し、登下校時の見守りや青バトによる巡回を実施していただいている。学校と地域が一体となって通学時の子どもたちを多くの大人の目で見守っていくことが重要と考える。教育委員会としても年度初めに、各小中学校から提出された通学路の改善要望箇所の危険度を踏まえ、警察や道路管理者を含めた関係機関による合同点検を実施、「松江市通学路安全推進会議」において、現場の状況把握や改善策の確認を行っている。

…「安全な通学」に関連して、「ランドセル症候群」について伺う…

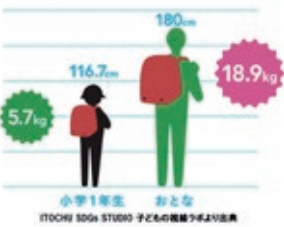
※体に合わない大きさ・重さのランドセルを背負ったまま、長時間通学することで起こる身体や心の不調を表す言葉

小学一年生が背負っているランドセルは、大人が背負うとどのくらいの「大きさ」「重さ」になるか想像してみると？

都内の小学生の荷物の平均が**5.7kg**で、成人男性(180cm)が背負うと、なんと**18.9kg**!! 驚いた私は、運営委員長を務めている雑賀児



童クラブ20名皆様にご協力頂き実際にランドルを計量してみました。結果は平均4kg!これにサブバック水筒等が加わりますから、**5.7kg**は妥当な数字です。育ち盛りの身体に及ぼす影響が心配になりました。



11月定例会 一般質問〈抜粋〉

Ｑ 松江市内では2km以上30分以上かけて通学する児童も少なくない。「ランドセル症候群」についての見解を伺う。

Ａ 学校で使用する教科書等の学用品が増え、児童生徒の携行品が重くなっていることは、課題として承知している。置き勉の許可、学期末には保護者に協力をもとめる等、荷物の軽量化に取り組んでいる。

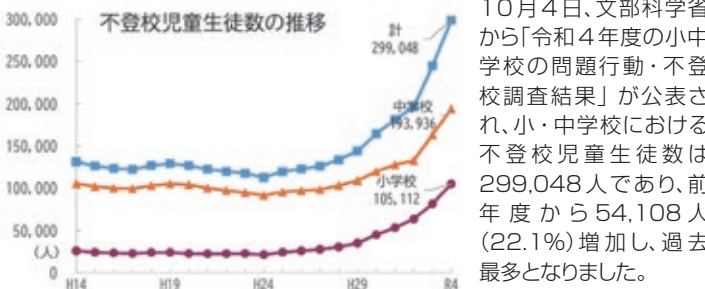
Ｑ デジタル教科書の導入は更なる軽量化に有効ではないか？

Ａ デジタル教科書については、国の事業で小学5年生以上で英語の教科書が導入されており、令和6年度については算数・数学が一部の学校に導入される予定である。

回答を受けて

デジタル教科書の導入には、費用面で高いハードルがあるが、子どもの安全、健やかな成長のために、更に積極的な取組を期待する。

3 不登校・・「COCOLOプラン」をはじめとする松江市の取組について



10月4日、文部科学省から「令和4年度の小中学校の問題行動・不登校調査結果」が公表され、小・中学校における不登校児童生徒数は299,048人であり、前年度から54,108人(22.1%)増加し、過去最多となりました。

個人研修&視察 東京（1月22日～24日）

次年度予算の傾向について、国会議員より下記内容の研修を受けました。担当部局に所属する国会議員より補助金を始めた国のさまざまな制度の活用例を直接伺うことでリアルに理解することができました。

今後の運用に向け大いに参考になりました。

①こども未来戦略について 小倉将信 衆議院議員
 ②地方創生について 金子恭之 衆議院議員
 ③国土強靱化について 尾崎正直 参議院議員
 ④農林水産について 武部 新 衆議院議員
 最終日には、2023年11月16日にオープンしたばかりの「羽田イノベーションシティ」を訪問し、施設を見学し自動運転バスに試乗いたしました。バスは6人乗りの「レベル4仕様」でオペレーターが乗車して、「レベル2」で運行されています。



第259回 松江出雲掃除に学ぶ会 雑賀小学校大会開催(12月10日)

当日は、福間亨教頭先生をはじめ小学生、中学生、高校生、保護者、地域の方々と会員さんの総勢31名で校舎の1階から3階にあるトイレを素手で清掃いたしました。学校のトイレを清掃するのは、高校卒業以来でしたし、「素手」で掃除をする事は、小学校以来、半世紀ぶりかもしれません。「掃除に学ぶ会」の理念にあるとおり、こころの汚れを洗い落としていき、心が磨かれていくような感覚を覚えました。古志原小学校や第四中学校など機会があれば、参加させていただきます。

当日の活動については、下記のQRコードから「松江出雲掃除に学ぶ会」のFacebookをご覧ください。※㈱イエローハットの創業者・鍵山秀三郎氏の掃除哲学に学ぶため「日本を美しくする会」が発足し、その会の活動理念「掃除を通して心の荒みをなくし、世の中を良くすることが私たちの心願です。」を実践していらっしゃるのが「掃除に学ぶ会」です。



Ｑ 国、県と比較し、松江市の現状と受止めを伺う。

Ａ 小学校における**暴力行為の発生件数は31.7件(1,000人当たり)**、**県は18.3件**、**国は9.9件**、**また不登校児童は計279人で、全児童数の2.83%。島根県は2.35%、全国1.7%で、ともに高い傾向**にある。本市は暴力行為に関しては、児童生徒に対して、教職員と共に丁寧に事実確認を行った上で、当該行為の振返りを促すなどの支援を行うとともに、不登校については、「オンライン学習支援ボタンねっ」となどの取組を推進し、改善に向けて対策を講じていく。

Ｑ 在籍校に復帰することのみを旨としない「不登校特例校分教室」について取組を伺う。

Ａ 「校内教育支援センター」の開設(市内47校のうち41校)に加え、学校に通いづらい小中学生の学習の場、社会的自立を支援する場として、「松江市青少年相談室」(内中原町)「松江市青少年支援センター」(白濁本町)を開設している。昨今の誰一人取り残されない学びの保障が求められている状況を踏まえ、子どもたちの多様なニーズに応えられるよう全ての児童生徒が学べる環境を整えるとともに、在籍校に戻らないことも選択肢に加え、先進自治体の事例も参考に、不登校支援の在り方を検討していく。

回答を受けて

暴力発生件数、不登校児童数がともに高い状況同様、不登校児童生徒の4割近くが相談や支援を受けられていないという状況(文科省調査結果)に危機感をおぼえる。市では様々な対策がとられているが、さらに不登校児童生徒の居場所、学びの場づくりが急がれると実感する。今後も実態の把握に努め、学校と行政と民間をつないでいきたい。

第15回全国水源の里シンポジウム in 島根県松江市 (R5.11.21)

このシンポジウムは松江市を含む7市2町に跨る流域面積2,540㎢、流域内人口約50万人で行われる、現代の「大蛇退治」と称される斐伊川・神戸川の治水事業を契機とした流域連携に着目し、シンポジウムの開催で流域間の絆を更に深めるとともに、流域連携の必要性を広く全国にアピールすることを目的として開催されました。昭和47年7月豪雨による広範囲にわたる洪水被害を発端として計画された「斐伊川3点セツ」とも呼ばれる治水事業は、上流・中流・下流がお互いに治水機能を分担するもので、これまで上流のダム、中流の放水路が完成し、残る下流の大橋川改修が現在進行中です。基調講演「これまでの100年とこれからの100年～斐伊川・神戸川改修のあゆみ～」

国土交通省出雲河川事務所長 小谷 哲也氏講演の冒頭で「くにびき神話」の謎・・・と題して、笑いを誘いながら「くにびき」の様子を解説いただきました。「神話」にまでさかのぼる流域の深いつながりをより強く感じました。今回、シンポジウムに参加し、治水事業が決定されるまでの長きにわたる過程、先人の熱い思いへの理解を深めました。流域の連携強化、流域全体の持続可能なまちづくりを目指すには、どう行動するべきか…思いを巡らす好機となりました。

